



国立台湾科技大学に 研究留学して

大学院先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻
博士前期課程 2年

棚次 亮介 (たなつぐりょうすけ)



龍虎塔にて(高雄市・台南)

私は、2016年の2月から2017年の2月までの1年間、台湾の台北市内にある国立台湾科技大学に留学しました。この留学は Double Degree というプログラムを利用し、徳島大学と提携がある大学院で、修士課程の学位取得を目的とし、授業を受講しながら研究活動を行うというものでした。台湾最大の都市であり、経済、政治、文化の中心地である台北市では、多くの商業施設や高層ビルが立ち並び、また昔の日本のような風情や情緒のある建築物も共存しています。台湾は歴史的に日本と関わりが深い国で、親日の方が非常に多く、とても過ごしやすかったです。

留学先である国立台湾科技大学は理系分野において国内トップレベルの実績を持ち、世界中から多くの優秀な留学生を受け入れています。私が所属していた医学工務研究所は、細胞や細菌に関する機能解析や、その技術の生体への応用などに関する研究を行っています。私はそこで、肺がんに対する新たな治療法の確立を目指して研究活動に携わりました。具体的には、エレクトロスプレー法による抗がん剤のポリマーカプセル封入技術の開発と、培養した肺がん細胞を用いた毒性評価試験を行

いました。私は大学に入学した当初から、将来的に海外で活躍できる人材になりたいという思いがありました。そこで、海外留学を1つの目標とし、語学や生物学に関する知識を深めてきました。そして、大学院に進学した時にこの留学プログラムを知り、多くの候補の中から中国語圏である台湾の大学院を選択しました。

台湾での生活は、生活習慣や文化、言語や考え方など、日本とは異なる部分がとても多かったです。特に、自分の考えを持ち、それを表現するということが重要だと感じました。しかし、それらの違いを積極的に楽しんで吸収しようという姿勢を持てば、あらゆる壁も乗り越えられると思います。私の場合は、学位を取得するために、授業に出席しテストを受け、また実験をして論文を書くといった、とてもタフな日々でしたが、同時に多くの友人が得られ、非常に楽しい1年間でした。この留学を通じて、海外で生活することの大変さや面白さを学び、また多くの知識や経験を得ることが出来たと思います。



修了生たちと卒業式典にて(下から二段目の右端が筆者)

もし、海外に興味があり、日本とは全く違った環境で研究してみたいという方がいれば、是非このプログラムを利用すべきだと思います。海外で研究生活を送るという経験を通じて、多様な価値観に触れ、人間的にも成長でき、これからの人生に有意義な1年になることは間違いありません。最後に、今回の留学に多大なるサポートをしてくださった、国際連携教育開発センターの浅田様、そして台湾科技大学の研究室の方々に厚く御礼申し上げます。

My Life in Tokushima

徳島との出会い

大学院医科学教育部 博士課程 3年
金 秀珉 [韓国] (キム スヒョン)



2015 Summer Program参加者と一緒に
(1列目右から3番目)



2016 Tokushima Bioscience
Retreatで発表した友だちと一緒に
(1列目左から2番目)

私の所属している福井研究室では、中枢神経系における新規因子である D-sein とそれを代謝調節する D-アミノ酸酸化酵素(DAO)の機能解析を主に研究しています。これらは統合失調症の発症とその病態に関与していることが知られているので、治療薬の開発も行っています。私はそれと関係のあるテーマに関する研究を行っており、成果を出すために一生懸命がんばっています。いろいろなセミナーや学会発表などを通して、専門に関する実力を身につけたいと考えています。博士論文をまとめる過程は想像していた以上に難しくですが、忍耐と粘り強さだけでなく、少なくともこの分野では私が一番だという自信を持ってチャレンジしていけば、必ず良い研究成果を出すことができると信じています。今後どんな研究ができるかをよく考え、社会に貢献する研究者になりたいと思います。また、

韓国と日本だけではなく全世界を舞台に活躍できるグローバルリーダーとしても活躍していきたいです。研究以外にも記憶に残ることがたくさんありました。日本語の実力は十分ではありませんでしたが、鳴門教育大学で韓国同時通訳をしたり、英検スタッフとして活動したりして様々な学生と交流しています。韓国が好きな日本人の友だちと韓国料理パーティーを開いてチヂミ、スンドゥブチゲ、焼肉などの料理をして、お互いの文化について学ぶこともできました。研究だけではなく、このような様々な経験を通して、私の大学院の生活がとても豊かになっています。徳島との出会い、また福井先生をはじめ多くの先生方や友だちとの出会いがあって、現在私がここで勉強ができていることを、本当に感謝しています。これからもよろしくお願いたします。

徳島といえば、美しい自然の風景と伝統文化がよく知られている場所です。しかし、私には子どもなどの思い出が詰まっている宝箱のようなところでもあります。父が生まれたばかりの私と母を連れて初めて日本の留学先に選んだ地が徳島でした。そのときにやり取りした手紙、ダイアリー、写真などを改めて眺めると、すべての瞬間が一つ一つ頭の中に浮かび上

がってきます。私は韓国語より日本語を先に学び、日本文化にも慣れ、日本の子どもたちと仲良く元気に遊びました。徳島で6年間を過ごし、韓国に帰ってからの忙しい生活の中でも、心の片隅には徳島と一緒に過ごした友だち、一生懸命に自分の責任を果たして他人のことを先に考える気配りのできる人たちを懐かしく感じていました。そんな私の心を誰かが知って

くれていたのか、高校2年生のときに、再び家族と一緒に徳島で1年間住む機会が与えられ、それをきっかけにして「日本でもっと勉強したい!」という希望を持つようになりました。2014年に文部科学省の国費留学生として徳島大学大学院医科学教育部病態システム酵素学分野の博士課程に入



研究室の皆と一緒に
(1列目右から2番目)